

2012.2.10  
第147号

**発行**  
福島県市町村教育委員会  
福島県教育連合会  
北耶麻沼両支会  
**編集**  
福島県教育庁  
会津教育事務所  
**編集協力**  
小・中学校長会

# 決断「プール実施」



会津教育事務所域内三支会連絡会  
会長 井上 禮子  
(会津若松市教育委員会委員長)

原子力発電所の二号機が爆発し、放射性物質が会津にも飛来してきた翌日。三月定例会。私たちは、子どもたちの命を守ることを最優先した教育活動展開の方策について、徹底的に話し合いました。しかし、会津にも迫り来る放射能の脅威。新学期は・・・教育委員の誰もが不安な思いを抱えておりました。

四月定例会。子どもたちの生活について、再度、安全確保の面から確認しました。そして、国の基準を参考とし、手洗いうがい、マスク着用を徹底させることにより、屋外活動の制限は

必要ないものと判断したのです。そんな中での春の運動会。教室に水をまき、昼食会場も室内にするなど、現場の先生方の努力には本当に感謝、感謝です。しかし、水泳に対しては中止を求める声が多く寄せられました。私たちは国に基準を示すよう幾度となく要望いたしましたが、一向に回答はありません。五月も半ばを過ぎ、もう限界。「市として独自に判断しましょう。」教育委員全員一致の結論でした。その日から、放射性物質を含んだ土がプールに入った

場合の放射線値の試算。プールの放射線量の測定。プールの独自検査。現場とともにフル回転です。結果、市放射線管理アドバイザーから「水質も空間放射線量も安全」との回答。しかし、「保護者の安心が得られるでしょうか。」不安は絶えません。そこで、水泳の授業に心配のある児童生徒は、無理に参加しなくてもいいことを認めることとし、各学校へ実施の通知を出しました。結果として、月二回、全ての学校での水質検査で、一ベクレル未満であっても数値が検出された場合には中止としたため、大きな混乱もなく実施できたのです。

## 各種受賞紹介 敬称略

### 文部科学大臣表彰

- 優秀教員
  - 喜多方市立塩川中学校 養護教諭 舟城敬子
  - 会津美里町立本郷第一小学校 教諭 平塚 学
- 学校保健及び学校安全表彰
  - 喜多方市立姥堂小学校 (学校保健)
- 学校給食表彰
  - 西会津町給食センター (共同調理場)
  - 河東学園小学校 栄養教諭 坂内 幸子(個人)
- 県教育委員会表彰
  - 地方教育行政功労者
    - 前会津美里町教育委員会教育長 新國 正明
  - 学校教育功労者
    - 会津若松市立鶴城小学校 校長 芳賀 忠夫
    - 会津若松市立第二中学校 校長 小野 俊夫
    - 福島県立葵高等学校 校長 新田 銀一
  - 優秀教職員
    - 会津若松市立城南小学校 教諭 菅家 篤
    - 会津若松市立大戸小学校 主任栄養技師 加藤 真理
    - 会津若松市立第一中学校 教諭 薄 昌弘
    - 会津若松市立第六中学校 教諭 久保木貞子
  - 「児童生徒(団体)」の部 特別功績団体
    - 猪苗代町立猪苗代中学校男子バドミントン部 (富岡町立富岡第一中学校男子バドミントン部)
    - 猪苗代町立猪苗代中学校女子バドミントン部 (富岡町立富岡第一中学校女子バドミントン部)
  - 社会教育関係功労者
    - 喜多方市 山崎 信子

- 社会教育関係功績顕著団体・施設
  - 喜多方市慶徳公民館
  - 東尾岐やってみんべえ会
- 文化財保護関係功労者
  - 西会津町野沢 根本 一
- へき地教育関係功績顕著団体
  - 会津若松市立湊小学校
- 県学校給食優良団体・功労者表彰
  - 磐梯町立磐梯第一小学校
  - 柳津町学校給食センター
- 県学校歯科保健優良学校・功労者表彰
  - 優秀賞 磐梯町立磐梯第二小学校
  - 優秀賞 湯川村立勝常小学校
  - 優秀賞 三島町立三島小学校
  - 優秀賞 喜多方市立第一小学校
  - 優秀賞 三島町立三島中学校
- 県学校保健功労賞
  - 功労賞(学校医)
    - 喜多方市立熱塩小学校他 渡邊 康久
    - 西会津町立新郷小学校他 小林 貞夫
    - 会津坂下町立坂下小学校他 佐藤 信也
  - 功労賞(学校歯科医)
    - 会津坂下町立若宮小学校他 猪俣 涉
    - 喜多方市立熱塩小学校他 宮城 園泰
    - 喜多方市立高郷中学校他 志田 公司
  - 功労賞(学校薬剤師)
    - 福島県立猪苗代高等学校 浅井 甚一郎
    - 福島県立猪苗代養護学校他 寿田 正夫
- 県学校安全ボランティア活動奨励賞
  - 駒形地区子ども見守り隊 (喜多方市立駒形小学校)



## 総務社会教育課だより

### 1 地域家庭教育推進会津ブロックセミナー

- (1)日時 平成23年11月26日(土)  
 (2)会場 北会津公民館、農村環境改善センター等  
 (3)内容 問題提起、講演、分科会  
 (4)参加者の感想

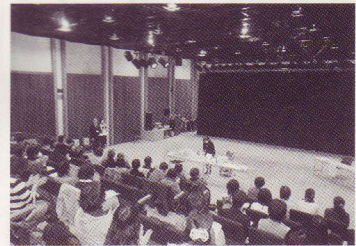
- ・ 講演会で分科会での話し合いの答えが示されたようで、うなずける話をたくさん聞くことができました。
- ・ 生きる力を育成する上で、地域社会と家庭との関わりが今後もっと必要になってくると思います。
- ・ ここに参加できなかった保護者にも、PTA活動を通してセミナーの内容を伝えたいと思います。



### 2 平成23年度子ども読書活動推進研修講座

- (1)日時 平成23年12月7日(水)～9日(金)  
 (2)会場 會津稽古堂  
 (3)内容 講演、講義、演習、事例発表、交流会等  
 (4)当日の様子

- ・ 会津域内を中心に86名が参加しました。
- ・ JPIC読書アドバイザーの児玉ひろ美氏の講演や演習は「子どもと読書」「読み聞かせの技術」など、すぐに活用できる内容でした。
- ・ 県立図書館の吉田久恵氏からは図書館の児童サービスについて、生涯学習総合センターの坂内香代子氏からは学校図書館との連携について講義がありました。
- ・ 鶴城小読書ボランティアの事例発表が行われ、子どもたちは目を輝かせて読み聞かせの世界に浸っていました。



## 域内における学力向上策の成果と課題

### 学校教育課

2学期は幼・小・中あわせて72回の訪問をさせていただきました。

以下、学力向上の視点から、成果が見られる点と課題として今後さらに取り組んでいただきたい点について述べます。

- 小学校においては、新学習指導要領のねらいや内容を十分に理解した授業が多く見られました。中学校においても、移行措置への対応が確実になされていました。
- 言語活動の充実についての十分な理解にもとづき、思考力・判断力・表現力育成のための言語活動を位置づけた授業が多く見られました。
- 学習への意欲づけの手だてがどの教科でも講じられ、工夫の跡が見られました。
- 児童生徒の実態を的確にとらえ、個に応じた具体的な支援計画が位置づけられていました。
- 中学校においては、授業の始まりと終わりのあいさつや意見の述べ方など、学校としての共通実践について努力の跡が感じられました。

- 学習への意欲が喚起され、必然性と解決の方法の見通しが持てるような学習課題(めあて)の設定が望まれます。
- 中学校では、教師主導の授業が時々見受けられます。生徒が主体的に学習できるような授業スタイルを目指してください。
- 身に付けさせたい力があいまいな授業が見られました。学習指導要領の内容との関連から作成した指導事項の年間計画にもとづき、確実な定着を目指してください。
- 児童生徒に考えさせる時間が不十分な授業が見られます。じっくりと考える時間を保障するとともに、発問を吟味してください。

授業研究以外に、講義で指導主事が訪問することも可能です。新学習指導要領に沿った新しい授業づくりや次年度の現職教育のテーマ設定等、各校のご要望に応じて日程等を調整します。まずは、担当までお気軽にご連絡ください。



**我がまちからの情報発信**

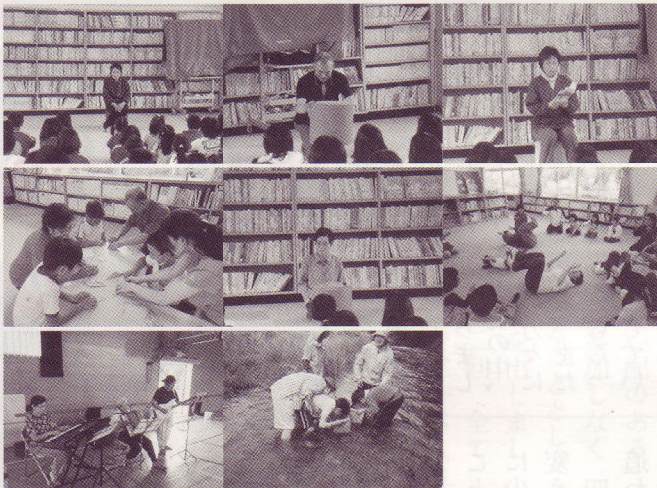
昭和村教育委員会

**「昔の遊びと郷土学習」**

本村のその昔は、道路事情が悪く、子どもたちは、村外へ出る機会がなく、子どもの遊びは、山や川、身近にある物での遊びを常としていた。

今は、道路も良くなり生活様式も変わり、親から子へと伝えられた地域の伝統文化的な昔の遊びは少なくなっている。このため、子どもたちの情操性向上と地域づくりへの貢献を目的に、平成14年にボランティア団体「杉の子会」が結成され、郷土学習の一環として小学校を訪問し、子どもたちの遊び体験と伝承を図っている。

(以下、「学校だより」から抜粋) 本校では、今年度も「杉の子会」の皆さんにご協力いただいて、様々な活動を行っています。昔語りを今月までに4回、子どもたちに分かりやすく話していただきました。また他には、年7回、ゲーム、バンド演奏、川遊び、折り紙など、計画していただき、川遊びなどの貴重な体験をすることができました。折り紙の時には、まだ終わりたくなくて、涙を流す子どももいたようです。毎回、様々なものを準備し、子どもたちの心を育ててくださっている杉の子会の皆さん、子どもたちも楽しみにしています。これからもよろしくお願いします。



**心の師**

会津坂下町教育委員会

教育長 佐藤 玄



30代も半ば頃、教師としての経験も浅くまだまだ未熟であったにもかかわらず、何事もいわば強引に頭から教え込み、「オレに付いてこい」式の教授方法が子どもたちにとって最良の教育と信じ、自分でもそれなりの成果を上げていたように感じていた。一方、成果が上がらない時は、自分の至らなさを棚に上げ、子どもたちの努力不足や周りの環境のせいにしてしまうこともよくあった。

そのような教育観をもったまま、あるへき校へ着任した。そこで、その後師と仰ぐようになるある二人の先生と出会った。一人は自分より年長の、もう一人は年少の先生である。二人の先生には共通点があった。実に子どもたちをよく理解し大切にされ、一人一人の潜在する力を引き出し伸ばそうと努められていたことである。すべて自分が中心で一方的に教え込むことに専心していたそれまでの自分の指導観からすれば、二人の先生方の子どもたちへの接し方や指導手法には、正直当初は、違和感や"甘さ"を感じずることもあった。

しかし、何事に対してもチャレンジ精神が旺盛で、しかも伸び伸びと意欲的に学校生活を送る子どもたちの姿を連日目の当たりにしては、自分の指導観は脆くも崩れていくばかりであった。子どもたちの姿を見れば、それがすべてである。

今私は、教師の心構えとして最も大切にしなければならないことは「一人一人の子どもが多様な可能性を信じ、見抜き、引き出し、伸ばしてあげること」であると確信しているが、そうした教育観の原点は、その時の先生方の教育実践である。

二人の先生に巡り会えて私は幸運であった。今でも、二人の先生を心の中で師と仰いでいる。

**ライフステージに応じた支援体制の構築  
～域内特別支援教育体制整備～**

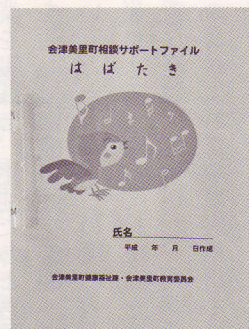
平成19年の学校教育法等の一部改正により、特別支援教育が制度的にスタートし、各学校、園では、一人一人のニーズに応じた、適切な指導や必要な支援をしています。

本県でも「地域で共に学び、共に生きる教育」を目指して、様々な施策を展開しています。そのような中で平成23年8月には、障害者基本法が改正され、国や自治体は、障がい者が、その年齢及び能力に応じ、かつ、その特性を踏まえた十分な教育を受けられるようにするため、可能な限り障がいのあるなしにかかわらず、共に教育を受けられるよう配慮し、教育の内容・方法の改善・充実を図る等必要な施策を講じなければならないと定められました。

会津域内では、平成22年度、会津美里町が特別支援連携協議会を発足させ、教育と保健・福祉・

医療の関係機関が連携し、特別な教育的支援を必要とする子どもたちに対して、乳幼児から就労までライフステージに応じた一貫した支援体制を作るための取組みが始まりました。また、会津若松市においても「特別支援連携ワーキンググループ」を障がい者自立支援協議会内に設置し、関係各機関との連携の在り方、研修体制などを具体的に検討しています。教育と医療・保健・福祉・労働等の連携は、特別な教育的支援を必要とする子どもたちにとって必要なことです。これから、各学校では就学に向けた準備が始まります。本人や保護者の不安を解消する意味からも、関係各機関が手と手を取りあって、情報を共有し、支援の輪を広げ、新学期を迎えられることができるようにご理解とご協力をお願いします。

(会津美里町相談支援ファイル)



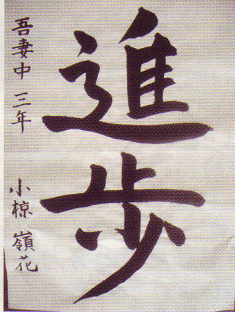


# 作品と指導

習字

猪苗代町立吾妻中学校  
三年 小椋嶺花

『進歩』

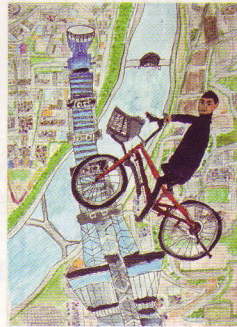


中学生らしい伸びやかさと力強さがよく表れた作品です。「進」は字の偏とつくりのバランスがよくとれており、「歩」は点画の連続を意識した行書の筆遣いができています。自分の進路に向かって歩む気持ちを込めて書きました。

指導者 五十嵐 香 織

絵

『自転車に乗って「スカイツリー」へレッツゴー!!』  
西会津町立新郷小学校  
五年 武藤 史明

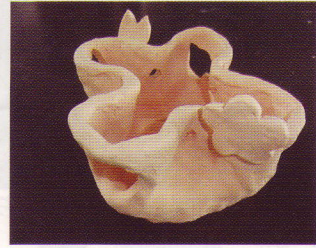


自分が想像したことを絵に表しました。遠近感を持たせるために、色合いや線の太さ・濃さを徐々に薄くするなど工夫しました。背景となる町並みは、実物にこだわらず、東京のイメージを具体的に表現しています。

指導者 酒井 浩一郎

工作

『春風ランプシェード』



会津美里町立本郷第一小学校  
6年 神田 沙和

素焼きのランプシェードをつくらう」をテーマに、「〇〇ランプシェード」と題名を決めてから表現しました。この作品は、花をモチーフに形や穴の開け方を工夫してつくりました。地元の流紋焼に、焼成してもらいました。

指導者 平塚 学

## 私の抱負

一歩一歩着実に



猪苗代町立  
吾妻小学校  
養護教諭  
遠藤 奈緒美

雪の残る四月、吾妻小学校に新規採用養護教諭として着任してから九ヶ月が経ちました。初めてづくしの環境の中、周囲の先生方や地域の方々から支えていただきながら、また子どもたちから元気をもらって充実した毎日を過ごしています。

子どもたちの心と体の健康に対するニーズは本当に様々であることを実感します。一人ひとりの想いを汲み取って接していきたいと考えていますが、日々反省の連続です。目の前のことだけにとらわれることなく、子どもたちの将来を見通した上での「今」にどう向き合っていくべきなのかを考え、現在私にできる精一杯のことをしていきたいと思っています。

子どもたちの成長を見守ることのできる喜びと責任を感じ、先生方に教えていただいたことを吸収しながら研鑽に励んでいきたいと思っています。

新採用栄養技師として



喜多方市立  
第一小学校  
栄養技師  
大竹 昂

長い間あこがれていた学校栄養職員としての仕事に就くことができ、児童生徒の成長に少しでも関わられることを大変うれしく思います。

四月当初は、様々な業務に追われ、児童生徒の顔を思い浮かべながら仕事に取り組むことができませんでした。しかし、受配校訪問等を通して、日常的な「食育」や「衛生指導」などの重要性について身をもってとらえることができ、職責の重さをさらに感じているところです。

まだまだ、多くの先生方や職員の皆様を支えていただいている私ですが、今後も「安心で安全な学校給食」を基に、「健全な食生活を実践すること」ができる児童生徒の育成を目指し、精一杯取り組んでいきたいと思っています。

初任の年と今後の抱負



猪苗代  
高等学校  
教諭  
安藤 雄一

東日本大震災という未曾有の自然災害が発生した年に、私は初任者として猪苗代高等学校へ着任しました。被災したことによって様々な混乱が生まれ、普通ではない時間を過ごし、普通であることがどれほど貴重なことであるかを痛感した年でもありました。そのような状況であっても、初任者研修を充実したものにしてくださいとの方々には心より感謝申し上げます。

私は、これから国語科教員としての専門性を生かした授業を実践し、生徒たちと言語を通して知識の共有を図っていくとともに、この度の大震災による「過酷ではあるが貴重な経験」を生かし、人間性の育成にも真剣に取り組んで参りたいと考えております。